

子ども虐待のリスクのある家庭を どのように評価・支援するか？

参加無料・定員120名先着順
研究成果シンポジウム



虐待予防に役立つ **アプリ・サイト** を用いた

エビデンスに基づくアプローチ と **対話に基づくアプローチの統合**
Evidence based approach Dialogue based approach

日時：平成30年10月8日（月・祝） 13:30—16:30

会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 会議室 BCDE

第1部（13:30—14:45）

虐待予防のためのアプリ・サイトの紹介とその使い方

プログラム

内容：児童虐待の早期・介入支援のためにリスク予測と支援をおこなう体制をどうつくるか、アプリの紹介、サイトの紹介、具体的な事例での応用、大規模データによる予測の効果と限界
発表者：森田展彰、種田綾乃、大宮宗一郎（筑波大学）、丹羽健太郎（川口短期大学）、川口由起子（植草学園大学）、田中恵次（株式会社 要）

第2部（14:55-16:30）

シンポジウム「子育て困難や精神的な問題のある家族の支援ニーズを受け止めるには？」

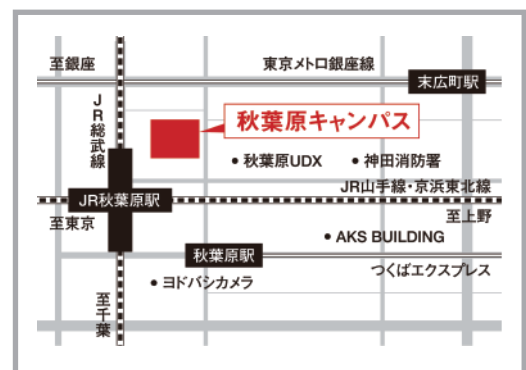
困っている家族とコミュニティの間をつなぐ対話的实践 斎藤環（筑波大学）
精神的な問題などで困っている親子を支援するには ぶるすあるは
依存症の家庭、特にそこに育つ子どもの支援 田中紀子（ギャンブル依存症問題を考える会）
小グループでリフレクティング、わかちあいと質疑

子ども虐待のリスク評価の難しさが、死亡など深刻なダメージが防ぎきれられていません。その理由は、過去のデータの蓄積を生かすきれていないことや、せっかく良い情報をもっているそれを生かす上でのコミュニケーションの問題（支援者—養育者—児童あるいは支援者間など）があります。私たちは全国児童虐待事例のデータベースを基に、養育者の抱えるリスクやそれを解決するポイントを知ることができるアプリケーションやサイトを作成しました。本シンポジウムでは、これらを用いた「エビデンスを用いたアプローチ（EBP）」を示すとともに、そうした方法のみでは難しい面を補う「対話をもとにしたアプローチ（DBA）」を取り入れた手法について、話し合いたいと考えています。

参加申込先・主催

筑波大学医学医療系 森田展彰
（ヒューマン・ケア科学専攻 社会精神保健学分野）
連絡先：筑波大学医学医療系 社会精神保健学研究室
mail: seishinhoken@hotmail.com
TEL・FAX: 029-853-3099

※参加ご希望の方は Email or Fax で氏名（可能なら、所属、職種も）をお知らせください。当日、空きがあれば参加も可能ですが、定員になった場合は、参加できない可能性があります。



千代田区外神田 1-18-13
秋葉原ダイビル 12階（1202室）
JR「秋葉原駅」（山手線、京浜東北線、総武中央線）
電気街口改札出て右 徒歩約1分
つくばエクスプレス「秋葉原駅」徒歩約2分
東京メトロ日比谷線「秋葉原駅」徒歩約5分
東京メトロ銀座線「末広町駅」徒歩約5分

